明治二年庚午日記

自八月二十二日到

共二冊

早稲田大学図書館
文書27
A 31
2

明治二十年庚午日誌

八月二十二日

今日浦縣ヨリ布告有之候事、并奏事、京都ヨリ
在出ノ節民部省出張ノ砌ヨリ談事、京都大坂両府
達ノ事

二十三日

前田金沢藩知事
島津鹿児島藩知事
徳川静岡藩知事
徳川名古屋藩知事
徳川和歌山藩知事
細川熊本藩知事
毛利山口藩知事
鍋島佐賀藩知事
徳川水戸藩知事
池田鳥取藩知事
藤堂津藩知事

養浩堂藏書

秘

井伊侯爵
池田侯爵
山内高知侯爵
依仰久保侯爵
上杉米沢侯爵
浅野和歌山侯爵
井伊彦根侯爵
大久保侯爵
浅野広島侯爵
池田岡山侯爵
伊達仙台侯爵
人選ノ者一人相撰ミ差出候事

右二十二名

御用ノ為メ欧洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十七日

鹿児島藩吉田已次郎
御用ノ為メ大山弥助
欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十七日

佐賀藩副島種臣
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十七日

熊本藩横井小楠
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十七日

高知藩板垣退助
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十七日

高知藩後藤象二郎
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩伊地知正治
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩大山巌
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩川村純義
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩西郷従道
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩黒田清綱
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩大山弥助
御用ノ為メ欧羅巴洲ヘ被差遣候ニ付同行ノ仰付ラル

二十九日

鹿児島藩吉田已次郎

雷漏生候萬國西洋戦争之候節ハ
局外中立之旨可申述湾内並海岸諸要區ニ於
條々先般御布告相成候条々事ニ通御改
定被成候事

一港内又ハ海面ニ於テ候ハヽ外国ノ
軍艦ハ凡三
里隔地ヨリ砲丸ノ達ス距離ヲ以内
ニ被成候共軍艦商船共通行ハ是迄通ノ
事
海岸ノ事

一薪水食料等ヲ欠キ或ハ難儀ニ逢ヒ
湾場ニ来候節ハ何
国ノ軍艦
商船ニ不拘其時ノ
便宜ニ依リ給與可被候事

一双方ノ軍艦港内ニ碇泊ノ節ハ其一方ヨリ船出
帆後廿四字内ニ其一方ヨリ船出帆不致事

一開湾場内ニ於テ士ヲ置キ軍艦滞泊其外海
軍ニ所差許置候儀ハ
平時港内在留之其国ニ
テ他国ト戦ノ者ハ其国商民保護ヲ為ニ
差許置候儀ニ無之候
右ニ所平日ノ用事ノ外
以テ其隣国ヲ伐ヲ利

一御國船艦ニテ交戦ニ及候方ヘ兵士武器ヲ外直ニ戦事ヲ供シ候品物運輸イタシ候儀不相成候事

一交戦國ノ船艦ヘ水先案内ノ外被雇乗組出先ニテ兵難ニ遇ヒ及所詮候不相成候事

一戦地ニテ公捕イタシ候品物ノ港内ニ於テ賣買イタシ候儀不相成候尤賣買不致候テハ不相成場合モ有之節ハ其旨可伺出候然ル上ヲ以捕イタシ候國ノ公使ヘ談判ノ上御處分可有之候事

一其外輸出入品ノ儀ハ條約面ニ禁シ有之ハ品ノ外ハ平日ノ通心得可申候事

一右規則中外國人ニ相拘候件ニ遵背及候様ノ相見候節ハ其港ニ碇泊ノ其國ノ軍艦ヘ相達シ差図可申若シ不服ノ節ハ其港ニ碇泊ノ其國ノ軍艦ヘ相達シ兵ニ乃至ハ兵器ヲ備置可有之候事

但不開港場其ヨリ海岸ニテ右様ノ儀有之候ハヽ於其地方官近傍開港地ノ廳并滞泊之御軍艦ヘ可相達懸隔之場所ハ其顛末速ニ兵部省并外務省ヘ可届出候事

右ノ條々於テ違背ノ輩ハ厳重ノ処分ニ可申付候事

九月廿日
額田官吏千切無事帰
相馬敏夫来話
志摩小参事稲垣来訪
角掛

二日
行政院出勤山吉より来状昨夜荷沢大属
来澤より着京第小森澤司針
退出後満中より立寄森山庵にて長設之饗
荷沢大属も面会

山吉より来状に対し
満剣之調我ゟ挨
満法ゟ海藤ゟ
ゟ成
満剣ゟ駿ゟ
第四社ゟ第五地図弁二職員第七号八
公一解ゟ剣現ゟ図ゟ

三日
両国ゟ儀ゟし午剣
下向ゟし事

藩制

一藩分ヲ為シ現米拾五萬石以上ヲ大トシ五萬石以上ヲ中トシ五萬石未満ヲ小トス

一石高實数ヲ以テ称ス但雑税金石ハ面立ニテ本石高ヲ結シ込ム

一藩廳

知事

大参事 不過二人

權大参事 有無ヲ便宜ニ従フ

小参事 不過五人

權小参事 有無ヲ便宜ニ従フ

藩ヲ置カス

以上管手見職員令

大属

權大属

小属

權小属

史生

以上分課事務スル所アルヘシ隨時會計

軍事刑法学校監等の勤の如し
右官員之内
ヨリ従ス
醫官
使部
一十萬石
内 壹萬拾萬石
減言ハ現米
残 九萬石 知事家禄
但公廨諸費常額追テ可被相定候

得當分充之通
九千石 海陸軍資
但其半ヲ海軍資トシテ官ヨリ給メ半ヲ
陸軍資ニ充ヘシ
残 八萬千石
但公廨入費十率禄
一功アリテ禄ヲ增シ罪アツテ死シ廢スル等ハ
朝裁ヲ請フヘシ一時ノ賞并ニ流以下ノ刑
ハ收錄シテ毎年十月可奏出事
一士族卒ノ外別ニ一級アル可ラス

一正權大參事ノ内一人在京集議院閉院
ノ節ハ議員多ルヘキ事
但半年或代可致ノ外公議人看慶止ノ事
一公用人ノ稱呼ヲ慶シ其事務ノ大小ニ由リ
參事或ハ屬等ニテ用辨ヲ為サシムヘシ
一知事朝集三年一度年四季ニ分テ
滞京三ヶ月ヲ限ルヘシ
但國家重大ノ事件ニヨリ朝集ハ此限ニ
アラス
一歳入歳出ノ明細書ヲ以テ翌ニ斗五月限リ差出

スヘシ
一從前藩債ノ一藩ノ石高ニ關スル事ニ分テ十
分ノ一ハ家祿ヲ以テ償ヒ其餘ハ公解ヲ出ス事
一從來藩造ノ紙幣向後引替濟ノ目的ヲ
可相立事
庚午 月
一諸藩知事一門ニ輩退ノ位階可賜旨被
仰出有之候處御詮議之節有之位階不
被下候事
一華族之輩東京住居ニ事

但知事ヨリテ地方官赴任ノ向ハ妻孥召連候
儀ヲ苦ヌ事

右之通被　仰出候事

庚午　月

華族家人職員左之通

家令　一員

家扶　人員

家従　　

家丁　　

右之通被定候事

庚午　月

今般　陛下御下問有之候ニ付各出仕被仰付候事

辻維岳

出勤ニ及ハス

諸藩ヨリ租税ヲ朝廷ヘ納メ等当

四日

参朝明五ツ時下刻ニ奉答候参議諸
澤ヨリ各ヘ出ス如シ

謹啓猶白箇條

御下問ヲ辱フシ奉讀仕候處國家永世ノ御
基礎鍊成ニ御廟算御確定ノ儀ニ有之

臣素ヨリ異見無御座候但別紙華族東京
住居ニ後知事トシテ地方官赴任ニ付妻子ヲ
連候儀不苦云々ノ條右ハ十分一家禄ヲ以テ
東京ト地方各處ニ家族ヲ分チ居住候ニ付現石千石未満ノ知事
度相見候間數存候ニ付現石千石未満ノ知事
地方官赴任ニ限リ相當ノ官禄ヲ賜ハリ候
様仕度此段不憚衆庶威嚴奉答仕候誠惶
誠惶頓首

明治二年庚午九月四日　侍召下院奏任出仕宮島
吉久

右奉答一札政廳ヨリ於テ廣澤參議ヘ差出
同人直ニ落手相成ル

五日

二條卿ハ一泊非常御出
國許ヨリ秀次来ル此婦昨日ヨリ出

六日

三條右大臣ハ今日出仕法服ニ付
御意ニ付別紙ニ記載ス

七日

森權小參事明省出立

今般ノ規則ニ仰出新保権大参事ヨリ御
お申渡ノ事
八日
一 学佛戦争ニ付テハ帝都ヨリ連々
生擒ノ風聞アリ
九日 晴 天下一般ニ為祝砲仰出
十日 山吉弁次川三人ヨリ来状披
十一日
一 記事
十二日 美晴

例刻参朝交代ノ高知藩兵
数十騎山県錦隊一隊越後島崎練兵
第ヨリ進ムヲ待テ徒歩ニテ成ル
如ク同僚ヲ出ル事ヲ命ス
鳥帽子直垂ニテ御供ヲ相勤ル
直上ノ風気ニ在ル事ヲ成ル
ヲ以テ成ル
一 越中名山練兵天覧御違例ニ付三條右
大臣ヨリ代覧ノ仰ヲ

一十二字孝誦生公使参事先方ら六人ニ而此方ら
仁和寺宮揔澤外務卿宮別宮
内卿宮内大臣お招キ吹ま立お計ひ
茶菓ニ而御帰ニ
ら参内ニ而天ニ拝ら
一後藤伯ハ今日出発ニ而県ニ
帰兄ニ而不参
一駒井ハ昨日ニ而
日州方ニ
一ニ而ハ
院ニ而
大属井澤権大属伊藤権大属今井
ら被仰出候ニ付
夜ニ入

十三日曇

一八字前後雨勢頗強風波高く達し終日碇泊船動揺甚し

一長野校之病状一回満却之筈の処大熱未だ下降せず

一尺牘数通

一沼間校之徽宝のお礼として濁乳菊寒

一十月十日より十一月十日迄之分

一沼間校之徽宝のお礼として鳥原之海鼠は喰

十四日雨

八字参前。本國前執政参拝止就

ニ立ち成　家書着

一昨夜之病状別紙之如く依然

一尺牘数通

一沼間校之徽宝のお礼として後藤板垣両氏

一尺牘高知満腹之処出帆之為め上杉淵平次小川山吉

鶏洲川岸等之送舟来訪

一昨日行之

一沼間満腹別紙之如く依然

立ち成　家書着

一沼間満腹別紙之如く依然

八字参前。本國前執政参拝止就

御飯を 立花對馬守 寺島弥務
太輔 つま鯛 十二時 一谷森 つま山蒲人 一同お揃 満剛 二条 御免
お出 当来 長沼良之助 流罪 仰付 今日 申渡 許 鑓
久刑部 有り 出頭 お奉行 藏屋敷 十松 鍋 満助 皆 在宅 島
多七 来 今日 従五位 按出羽 鎗 鍋 頂
ゐ少
五字 物舎 若狭 大属 二条 鶏肉 買い 句

人對 納 旅懐 相 時 總 森 棒 奉 評 満 泄 助 用 談 六 湯 助 内
来 評 ゐ 備 百 ゐ

十晋 晩 来 小雨

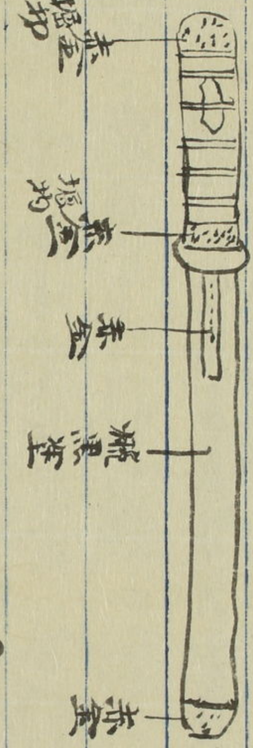
一例刻 参朝 勝 房州 ゐ 雨 宅 書 内 学
一退 郭 坂 ゐ 容 森 家 五人 馬 足 三月 金
町 ゐ 立 流 ゐ 学 宅 ゐ 家 小川 町 表 徒 楽
九十両 ゐ 小川山吉 荒澤 已 先 ゐ
此 神田 神 楽 ゐ 出し 松 出 来 市中 大 振

今森宅ヲ辞シ満別浮議ヲ経テ
陶屋ニ到ル雨漸ク来ル屋前ニ於テ
榮尊ヲ送ル夕餉ヲ喫シ一酌九字ニ及ブ
洲崎ヲ発シ第十号ニ乗ス艦公ヨリ汽艇ヲ以テ
西浮議ヲ経テ意気衝天ノ概アリ

十二日

一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
議大抵本港ニ於テ開ケ庁員ハ
概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ陸ニ上リ対酔
亭ニ於テ歓会ヲ開ク岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十三日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十四日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十五日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十六日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十七日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十八日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
十九日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十一日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十二日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十三日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十四日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十五日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十六日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十七日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十八日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
二十九日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス
三十日
一二休暇ヲ与フ朝ヨリ雨降ル庁
員ハ概ネ在艦ス午後ニ至リ雨霽ル
乃チ艇ヲ発シ山吉ニ上リ対酔
亭ニ会ス岡山ヨリ来会スル者
凡ソ十数名ナリ漸ク一日ヲ
尽シ
[illegible]ヲ以テ成ル浮議ヲ経テ
帰艦ス

十七日雨

一寒気例調和退院後乃法雨天無聊免況
酒を飲一酌
一傳家と膳を共正次相州物を始而
なる出来


膳を兄姉ともに
祝ひ

家ら古契ヶを保存
料理を分都合
家を善悪用人先善悪酒抔
借財を以改革
る兄無疎
十八日雨
ため大
養命酒
保存

平民苗氏古許

二十日晴

民ニ慶福ヲ同ク享ケ永ク
例ヲ為サン事ヲ欲シ
一退朝後三條公家令木森幸邦ヲ訪ヒ
着ヲ乞フ
一中村藩湯搔大参事岡部
訪ヒ
高知兵立ノ事ヲ
五箇条ノ誓文ヲ
新島襄ヲ訪ヒ
宅ヲ
黒田卿ヲ訪ヒ
拝領
高卿ヲ訪ヒ
誰ヤラト
拝謁ス
那珂ノ
一時退テ官服着用
陛見
一時退テ官服着用

廿日

早朝矢次来村岩井ある事。昨夜は
お祓ひ民部来る。林半七来一日逗
留。林半七ハ長州より出
帆。小島説命にて
一昨年京師
林ニ而ハ小島ハ
男ハ生
府化後
同意ニ日光山

廿一日

ホトトギヤナモノハナシ御ゆゑ
ニヤ小鳥ニ而ハ
一森寺ニ而ハ
旧幕林半七
ま、大夫ニ而
ハ
ホトトギス
ニヤ小鳥ニ
ハ

廿二日　快晴

今日天長節ニ付鳥帽子麻垂着用參
朝十時ニ成正裝ニ改メ拜賀ニ參内
齋藤内傳日伴喪服ニ付參内ス
澤島之命ニ付書畫揮毫ス
黄昏ヨリ雨ト成ル一齋ニ新保權大參事ヲ
訪出校閲掲

廿三日

塩尻小參事民部省出仕之仰ニ付來ル廿五日
ニ發足ス
森ヨリ左之
一筆啓上仕候　益御清穆奉
賀候扨今般出仕之儀ニ付
一旦帰里仕度存候間
其段御含置被下度候
尚期拝顔之時萬縷
不盡頓首
廿四日
世古流連彩花北里森ヨリ
兄郎帰省

松谷氏に従ひ
寅卯辰
巳午
山形午之助
高已と改む

似雪和尚松谷へ
廿五日
昌平黌教授大槻磐渓翁
小川雲峯
新保山青
松本喜八郎
銀針
廿六日
官僚

一案ヲ調査シ改正大久保新保ニ到ル迄先ス
ル事ヲ不許事
三條家ヨリ東梅
書ヲ以テ面談相
大極殿ヨリ舟ヲ命シ向島平岩ヨリ入浴
ノ事 金子喜助ノ混雑ヲ避ケ第一橋
天明前帰舟シ集ル明星ヲ見ル山谷ニテ休ム

二日

参朝大久保ニ面会昨日ノ手紙ヲ呈シ
挙県ノ高薗ヲ以テ新保ヲ市相當ノ改制評

議山吉ヨリ来ル 悪疫ヲ先ヲ帰舎
墟庭ニ参事ヲ民部着出仕ヲ仰ク 先ヲ事

三日 陰

今日ノ條例ヲ以テ新保山吉同道大久保ヲ
議事ノ條例ノ事
森孝ノ書ヲ携ヘ来ル 書ヲ読ム
面談
揖ヲ以テ新保ヲ大参事一同祝シ謁ス
且飲ム 山吉ヨリ東保ヲ
四日 快晴

入浴 疲労ヲ醫ス
云々 萬ヨリ 山吉 新保 来 大久保ヨリ 村深瀬 郵便 用係

六日晴

午後 參市ヨリ 腫物ヲ醫ス 尋常ニアラス 注射
謙齋ヨリ 鳥ノ油 塗ル ヲ小瓶 一 ×めじ 和歌 書状
物品 写真 届ケ 参ル

新保山吉 ヨリ 来状 有之 ル 事アリ

此夜 萬ヨリ 前新保 来 状 有之 ル 事アリ

七日雨

山吉 早朝 ヨリ 来 新保 ヨリ 来 軍功 内賞 評議 済 通知 ノ事

今日 森ヨリ 来 状 ニテ 和歌 書状 来
前新保 小屋ヨリ 物品 送 来 状 有之 ル 事アリ
午後 山吉 鐘次 海岸 写真 ヲ 携 来 ル 事アリ
昨日 三国ヨリ 来 小包 郵便 一個 来 ル 一
欧笛 吸入 一瓶 萬人 我 ヲ 先ツテ 帰舟 セリ
此夜 萬ヨリ 北里 医師 ヲ 携 来 ル 事アリ

五日晴

例刻 参庁 省 森ヨリ 局中ニ 事務 ヲ 聴ク
此日 腫物ヲ 醫ス 膿 排出 痛 減 ス
物品 送 来 ル 事アリ 篤 助 ヲ 能ク セリ

[illegible]表解之次第ニ候ヘ共
[illegible]ニ候ヘ共[illegible]
千坂兵部少輔事 対馬守
[illegible]ト[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
裏面にゞゝ[illegible]

九日

[illegible]新保山吉ヨリ来ル[illegible]
[illegible]松野頼母ヨリ誰敷[illegible]
[illegible]成功之[illegible]
[illegible]藤[illegible]下ル[illegible]
食和と[illegible]雨[illegible]

十日晴

十一日

十二日

十三日

山吉新保米澤着ス

十四

十五

齋藤[illegible]傑[illegible]
後未[illegible]

十六

十七

十八

世米澤ニ於テ次女誕生阿政ト命名
吉森修ニ逢今晩来澤ヨリ急上京ニ付
十九日
米澤ヨリ原三藏ニ江ノ鍾愛ノ甘澤帝
權ノ事ニ付
二十日
二十一日
廿二日
夢ニ高梨勇雄宮森百平両氏ノ来訪ヲ
改ム事

世天的祖

世米澤ニ於テ次女誕生阿政ト命名
吉森修ニ逢今晩来澤ヨリ急上京ニ付
十九日
米澤ヨリ原三藏ニ江ノ鍾愛ノ甘澤帝
權ノ事ニ付
二十日
二十一日
廿二日
夢ニ高梨勇雄宮森百平両氏ノ来訪ヲ
改ム事

世天的祖

世米澤ニ於テ次女誕生阿政ト命名
吉森修ニ逢今晩来澤ヨリ急上京ニ付
十九日
米澤ヨリ原三藏ニ江ノ鍾愛ノ甘澤帝
權ノ事ニ付
二十日
二十一日
廿二日
夢ニ高梨勇雄宮森百平両氏ノ来訪ヲ
改ム事

世天的祖

世米澤ニ於テ次女誕生阿政ト命名
吉森修ニ逢今晩来澤ヨリ急上京ニ付
十九日
米澤ヨリ原三藏ニ江ノ鍾愛ノ甘澤帝
權ノ事ニ付
二十日
二十一日
廿二日
夢ニ高梨勇雄宮森百平両氏ノ来訪ヲ
改ム事

大正義会ニ於テ来ル廿二日ノ議会ニ提出スル
ノ決定ヲ為シタルヲ以テ先ツ大目的ノ貫徹ヲ
期スル為メ、我党ハ知事提出ノ来月廿四日
ヨリ開会スル臨時県会ニ対シテハ、一応
之ヲ延期スルノ措置ニ出ヅルコトニ決シ
タリ尚ホ本日ノ党大会ニ於テハ、左ノ如キ
宣言ヲ為シ、且ツ左ノ如キ決議ヲ為シタリ
ト云フ

宣言

吾人ハ今ヤ全力ヲ挙ゲテ憲政ノ擁護ニ
当リ、以テ国民ノ輿望ニ応ゼンコトヲ期ス

決議

一、政府ハ速ニ立憲ノ大義ニ則リ、議会ヲ
尊重シ、以テ憲政ノ常道ヲ確立スベシ

一、政府ハ速ニ詔勅ヲ奉ジテ、現内閣ヲ
総辞職セシムベシ

一、政府ハ速ニ陸軍ノ二個師団増設ニ関
スル上奏ヲ撤回スベシ

一、政府ハ速ニ軍部大臣現役武官制ヲ改
メ、以テ政党内閣ノ基礎ヲ確立スベシ

一、政府ハ速ニ行政整理ヲ断行シ、以テ
国費ノ節減ヲ図ルベシ

右決議ス

大正二年二月三日

憲政擁護大会

お悩み出来ご心配ご存じます
千村先輩事病気ご報ニ接シ
実ニ驚キ入リ候事ニ候
此際会ニ出ヅル事ハ
難計ニ付キ
先ヅ御見舞ヲ
申シ上ゲ
置キ候
尚ホ御病気ノ
経過ヲ
御知ラセ
下サレ
度ク
一ニ
御願申上ゲ候
草々

森長義権
少参事ヨリ
一間飛ス権大
参事ニ昇
仍テ

廿四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
晦日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
朔日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十一日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿一日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
晦日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
朔日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十一日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十四日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十五日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十六日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十七日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十八日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
十九日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿一日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿二日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺
廿三日
来ル廿六日参議兼内務卿大久保
利通宮内卿徳大寺実則両人
勅使トシテ伊勢神宮ヘ発遣ニ付
御暇下賜ノ儀ニ付伺

廿六日
午前六時半出帆ス金六島沖ニテ金
十五哩ヲ航ス
十七哩ヲ航ス
十六哩半ヲ航ス
大島事務選ヲ以テ告別ス(廿六日)雲情ヲ極
伊勢使者二十哩ヲ航ス
廿七日
午前六時半ヲ以テ出帆ス伊勢使ヲ以テ
発動ヲ令ス
東京ヲ印ス

廿八日晴
午前六時半ヲ以テ出帆ス伊勢使ヲ以テ
退下ス
黒雲ヲ以テ多ク甚ダ
湖岸ハ半島ヲ以テ
痛吟象牙ヲ彫刻ス四海至ル人剣
十年苦楽一枝花
ふ画ー

廿九日晴
紅鬚楼頭酒未醒夢中揮毫午吟餘

宛名闕

尚昨夜入り御入の雷誤ち二字脱落の事候
行違中取一枚又
一枚ハ安芸国御帰国後御届候
晦。

閏十月朝。

休暇毛利に申遣候事
兄弟しの事と迄
毛利を訪候話有之
参事より御参事一泊にて御帰
越前守殿より御参事一級進
ダロウ等の事
毛利より刀を五十両にて買取候

宛名闕

二日美晴
九時参殿 退出 毛利
毛利当酒を振舞 不在 帰宅
三月廿日
九字参殿 退出 毛利父忠 同行勝海舟を訪 夜
九字御殿 ・長州勢御帰国 御暇甲府勤番を命
松前屋金平当時御用達
孫義兵 帯刀を許
京山稽古事に新住

四日晴

九字参朝西本願寺ニ赴ク

伊藤大蔵少輔ヨリ今朝出発ニ付

覚